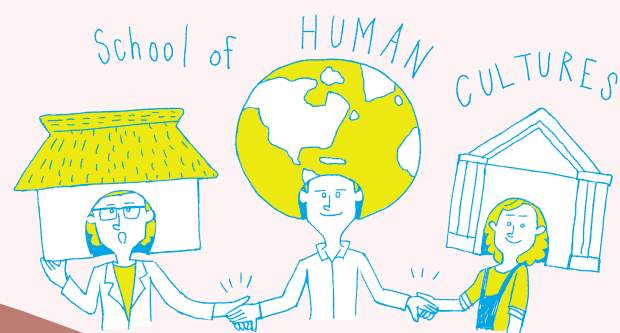


人間文化学部

- ◆地域文化学科
- ◆生活デザイン学科
- ◆生活栄養学科
- ◆人間関係学科
- ◆国際コミュニケーション学科



「地域」と「生活」という観点からあらためて人間文化を考える

わたしたちの暮らしは身近な地域と密接に関係する一方で、さまざまな国とつながっています。人間文化学部では、日々変化していくわたしたちの生活を観察し、研究することによって、地域と国際社会のあり方をとらえなおしていきます。学部は、わたしたちの生活を立体的に学ぶ5つの学科で構成されています。さまざまなフィールドワークを通じて地域のあり方を考える「地域文化学科」、人とモノとの関係に注目してそれを形にする方法を考える

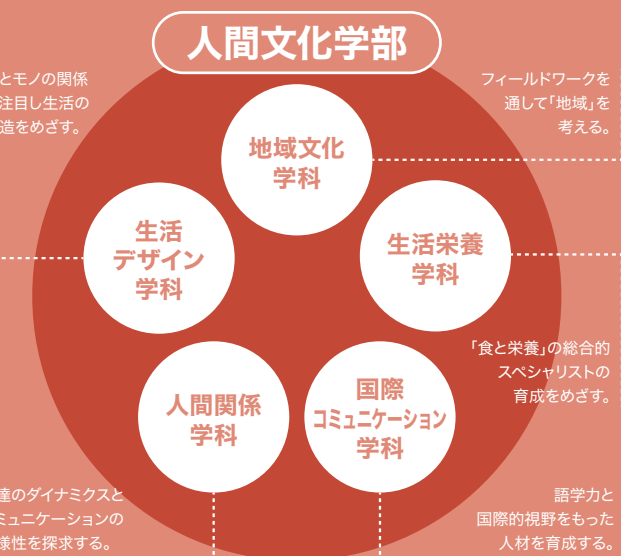
「生活デザイン学科」、われわれの健康を日々支える「食と栄養」を多角的に捉える「生活栄養学科」、人間が発達しながらどのように社会を構成していくかを考える「人間関係学科」、そして豊かな語学力を基礎として国際的視野を持つことを学ぶ「国際コミュニケーション学科」。これら5つの学科は、共通科目や教員の共同研究によって結びつく一方で、少人数教育を実現すべく、それぞれが独自のきめ細かいカリキュラムを用意しています。

◆学びのポイント

- Point 1** 少人数教育で学生・教員の緊密な対話。
教員ひとりに学生数人。ゼミナールなどによるきめこまかな指導でコミュニケーション力も育ちます。
- Point 2** フィールド（現場）重視の実践学習。
授業で学んだ知識や技術を、「現場」での調査や実験・実習などを通して確かなものとしめます。
- Point 3** 多角的視点と多彩な手法で豊かな教養。
多様な学問分野からの多面的、横断的アプローチにより、的確で鋭い把握力、分析力を身につけます。

◆学部共通基礎科目の例

講義	講義
人間文化論A 奥村 万寿美・塚本 礼仁・藤木 庸介 ボルジギン プレンサイン・細馬 宏通 人間文化学部は5学科から成っていますが、それぞれの学科は特定の分野の中に閉じ込められているわけではありません。各学科教員によるレクチャーで、学問の関心を広げるヒントをつかみます。	人間文化論B 濱崎 一志・京樂 真帆子・小熊 猛 マーティン ホークス・塚本 礼仁 文化は様々な歴史的要因によって他の文化と交流し、受容や反発の複雑なプロセスを経て、その形を変容させていきます。具体的な文化現象をとりあげてその交流や変容の問題について論じます。
講義	実習
人間文化論C 宮本 雅子・遠藤 弘史・中井 直也 中村 好孝・東田 一彦・福渡 努 松嶋 秀明・奥村 万寿美・横田 尚美 家族は人間にとっての最小の共同体で、基本単位です。家族の現代における変容と、家族の生活の容れ物である住宅、さらに家族と食事との関係について講義します。	環琵琶湖文化論実習 学部教員 琵琶湖のまわりに点在する文化財や民俗等、地域の文化や人々の生活文化を、いくつかのテーマを設定して実際に調査し、人間文化研究の基礎的な態度・方法を学びます。



フィールドワークでは学生で意見交換したり、地域の方と交流するので、近い将来に役立つコミュニケーション力が身につきます。



TOPICS (トピックス)

TOPIC 1 地域文化学科

市川秀之・武田俊輔編『長浜曳山祭の過去と現在：祭礼と芸能継承のダイナミズム』が、おうみ学術出版会より刊行されました。教員・学生によるユネスコ無形文化遺産に登録された祭礼のフィールドワークの成果として、学科・大学院の卒業生による論考も収録されています。



TOPIC 2 生活デザイン学科

JR琵琶湖線乗降りスマートガイドブック



ユニバーサルな社会を実現するためにデザインで貢献しています。



宮本研究室では、JR琵琶湖線各駅（京都駅から長岡駅）の実態調査を障がい者の協力のもと行い、バリアフリー情報冊子を作成しました。何らかの障がいがあっても安全に電車を利用できるようにという思いから、乗車駅と降車駅の停車位置情報をわかりやすくまとめました。

◆授業ピックアップ



地域文化学科
学生による長浜曳山祭の調査



地域文化学科
伊勢齋宮調査



生活デザイン学科
卒業研究審査会



生活栄養学科
食品機能科学実験



生活栄養学科
食品加工実習（工場見学）



人間関係学科
ニホンザルの観察実習



人間関係学科
卒業論文構想発表会



国際コミュニケーション学科
English Lecture B

TOPIC 3 生活栄養学科



水谷天音さんが公益社団法人日本糖尿病協会主催の第4回チャレンジ！糖尿病いきいきレシビコンテストで最優秀賞を受賞しました。



TOPIC 4 人間関係学科 生涯発達支援研究センター

子どもから高齢者まで、一人ひとりの発達に寄り添い、仲間づくりを応援しています。みんなの発達にとってよりよい社会とは何か、ともに考え行動していきます。

地域のお母さんと赤ちゃん。大学キャンパスを利用した母子活動を楽しみ、研究にも協力くださっています。



TOPIC 5 国際コミュニケーション学科



モンゴルに留学した学生たちの卒業論文集が一冊の本となりました。現地で遊牧民や都市についてフィールドワークを行い、大変読み応えのあるものとなっています。

